

タイ北部中等教育機関におけるプロジェクトワーク実践報告 —ユパラートウィッタヤライ校と京都府立東宇治高等学校との文化交流プログラムから—

鈴木由美子

1. はじめに

2003年に国際交流基金が実施した海外日本語教育機関調査によると、タイにおける日本語教育の現状は前回の調査(1998)と比べ、学習者数、機関数ともに大幅に伸びている。特に初・中等教育の伸び率が高く、前回の調査では7694人であった初・中等教育の学習者数が2003年には17516人に増加している。2001年にタイ教育省教育局によって発布された「2001年基礎教育カリキュラム」において「カリキュラムの制作においては、各学校が状況やニーズに応じて以前より自由に設定することができるようになった」(プラニー2004, p78)ことが教育機関の日本語コース開設増加につながったと考えられる。

タイ北部地域における中等教育機関の日本語開設校も増加傾向にあり、2006年12月時点における報告者の調査と稲葉(2002)の調査を比較すると、開設校数、教師数、学習者数ともに約5年でほぼ倍の伸びを示している⁽¹⁾。

報告者は2005年5月から国際交流基金の派遣事業でユパラートウィッタヤライ校(以下「ユパラート校」と略す)という中等教育機関に派遣され現在に至る。当校はチェンマイ県最大の規模を有する中等教育機関で、前期と後期を合わせた6年間の中等教育が行われている。

2. プログラムの背景

本プログラムは異文化間理解を目的として、ユパラート校と京都府立東宇治高等学校(以下、「東宇治高校」とする)とで実施しており、今回で9年目を迎える。毎年8月に東宇治高校の学生が、4月にユパラート校の学生がお互いの学校を訪問し、交流を深めている⁽²⁾。

元々は京都の府立高校生がユパラート校の教職員、学生の自宅にホームステイし、ユパラート校でタイダンスやセパタクロ、紙工芸などを体験するというのが主な交流内容であった。

2004年度からユパラート校に選択必修科目として日本語コースが開講されたことにより、日本語学習と連動した活動が行われている。報告者は2005年度より国際交流基金日本語教育ジュニア専門家としてユパラート校に赴任しており、昨年度行われた本プログラムにも参加した。昨年度の反省を踏まえ、今年度は日本語コースのカリキュラムに本プログラムを連動させるプロジェクトワークを2種類実施した。本報告はその実践報告である。

2.1 交流プログラムスケジュール

以下は今年度のプログラムのスケジュールである。

2006年	8月4日(金)	東宇治高校到着。ホテルでウェルカムパーティー。
	5日(土)	朝、ホテルにて、ホストファミリーとのマッチング。
	6日(日)	ホストファミリーと過ごす。
	7日(月)	ユパラート校にて、文化交流活動。 歓迎式の後、日本語プログラムの学生と交流。
	8日(火)	東宇治高校、チェンライへ。
	9日(水)	チェンマイを出発。

2.2 ユパラート校での交流内容

東宇治高校の学生らがユパラート校に訪問するのは1日のみなので、開会式などはなるべく簡略化し、日本語コースの学生たちと多くの時間を過ごせるよう実行委員会に要請した。当日は朝8時の全校生徒による朝礼での歓迎セレモニーに始まり、4時半まで様々な活動が行われた。そのうち日本語コースの学生たちが関わった活動は以下の通りである。

(1) M6(高校3年生)有志によるムエタイショー
(2) M5(高校2年生)による、学校案内。グループに分かれて、学校の地図を作成
(3) インタビュープロジェクトでペアになった学生と意見交換 → 日本事情入門
(4) M6による、チェンマイ観光案内(ポスター発表) → 観光日本語
(5) 日本語コース(高校1年生～3年生)全体と東宇治高校生とのQ&A
(6) M4(高校1年生)による、お別れの歌

日本語コースの教室内に、ホストファミリー募集のため東宇治高校から送付された日本人学生38名の写真と名前を掲示しタイ人学生が活動への意欲を高められるよう工夫した。

次章ではプロジェクトワーク実践報告の前にユパラート校の日本語コースカリキュラムについて概観したい。上記2.2の交流内容のうち(3)と(4)が日本語コースに連動した活動である。

3. ユパラート校日本語コースカリキュラム概要

前述の通り、2004年度から日本語が選択必修科目として開講された。週に8コマの授業があり、各学年1クラスずつ開講されている。概要は以下の通りである。

表1 学生数と科目名

M4(高校1年生)	49人	文法 4コマ	聴解・会話 2コマ	読解・作文 2コマ
M5(高校2年生)	38人	文法 4コマ	聴解・会話 2コマ	読解・作文 2コマ
M6(高校3年生)	48人	文法 4コマ	日本事情入門 2コマ	観光日本語 2コマ

(*網掛け部分がプログラムと連動したコース)

2004年度のコース開講時に、高校3年生(以下、M6)の科目名「日本事情入門」「観光日本語」が設定されていたが、内容については十分な検討がなされていなかった。今年度に初めてM6が開講されたため、コースデザインを検討しなければならなかった。

そこで、今年度は本交流プログラムとの連動という観点から以下の実践を試みた。

4. プロジェクトワーク実践報告

4.1 日本事情入門—インタビュープロジェクト—

4.1.1 コース内容

- (1) 目的：1. 日本の現代事情について知識を得る。
2. タイの文化との比較から異文化理解を深める。

(2) 活動：インタビュープロジェクト

(3) 時期：2006年度 前期（5月中旬～8月中旬）

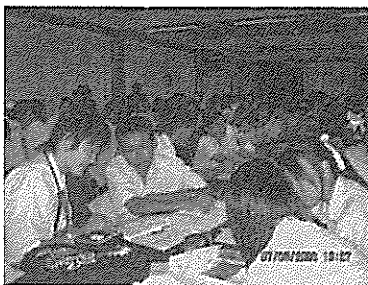
(4) 内容：日本について興味のあるテーマを決め、テーマについて東宇治高校の学生にメールでインタビューし、レポートにまとめる。

日頃疑問に感じ、興味を持っていることを同世代の日本人とインターアクションし、内省することによって、学習者自らの力で「私にとっての日本観」の一部を形成できるのではないかという試みである。マスメディアからの情報を鵜呑みにするのではなく、自分自身で「日本」を感じて欲しいという意図でコースデザインを作成した。また、日本の学生にとっても、日本語を学習している同世代のタイ人学生の疑問を感じることで、彼らが日本の何に興味を持っているのかを知ることができるいい機会だと考えた。

表2 プロジェクトワーク進行表

	ユバラート校	東宇治高校
5月上旬	両校の担当者に授業内容の主旨を説明し、協力を依頼	
5月16日	学生に活動の趣旨を説明。 ブレインストーミング（タイ語）	
23・30日	テーマ発表（タイ語） （テーマを選んだ動機・理由も含め）	
6月1日	テーマとメールアドレスを東宇治高校に送付	テーマを見て興味のあるものを選ぶ →パートナー決定
6月初旬～	テーマの決まった学生から、インタビューする作文を書き始める。	パートナーに自己紹介メール送信
6月中旬～	自己紹介メールのやり取り	
6月下旬～ 7月初旬	インタビューの作文を送信	メールの往還
8月7日 （交流活動）	パートナーと対面する。 メールで聞き足りなかったこと、分からないことを再度インタビューする。	
8月18日	レポート提出	

写真1 交流プログラムでペアにインタビューする様子



4.1.2 インタビューテーマ

M6の彼らにとっては今年で3回目を迎える交流プログラムであるので、日本人高校生に接するのは初めてではない。また雑誌やTVなどから得る日本についての情報は比較的豊富である。彼らの日本語学習を始める動機が日本の音楽やアニメなどであることから、そのようなテーマを多く選ぶであろうと予想したが、意外なことに社会生活に関するテーマが多かった。以下は学生のテーマを5つに分類したものである。

1) 学校生活に関するテーマ (12) (() 内は人数を示す。)

1-1 クラブ活動、1-2 放課後の過ごし方、1-3 スポーツデーについて、1-4 将来の進路について、1-5 文化祭のやり方、1-6 制服について、1-7 学校の規則について、1-8 日本の高校のカリキュラムについて、1-9 朝礼について、1-10 お弁当について、1-11 学校で使うかばんについて、1-12 学校がせいけつな理由

2) 日常生活に関するテーマ (9)

2-1 おはしの使い方について、2-2 アルバイト、2-3 ゲームセンター、2-4 日本のこどもの遊びとタイのこどもの遊び、2-5 好きなスポーツ、2-6 家族、2-7 お化粧について、2-8 朝の過ごし方、2-9 日本人はなぜ歩くことが好きなのか

3) 日本文化に関するテーマ (3)

3-1 弓道、3-2 日本のお寺とタイのお寺、3-3 日本の天皇

4) 日本料理に関するテーマ (5)

4-1 おせち料理、4-2 タイのお菓子和日本のお菓子、4-3 めんについて、4-4 さしみとすしについて、4-5 刺し身とわさび

5) 社会生活に関するテーマ (19)

5-1 パチンコについて、5-2 タイと日本の仏教の違い、5-3 時間についての考え方、5-4 日本の選挙、5-5 森林保護について、5-6 国旗の意味、5-7 日本の若者について、5-8 私立大学と国立大学、5-9 タイ・日本の衣服文化、5-10 通学方法について、5-11 空気汚染について、5-12 家屋の建築様式、5-13 祝日について、5-14 紙幣について、5-15 携帯電話について、5-16 結婚式、5-17 職業、5-18 第2次世界大戦、5-19 日本の方言について

4.1.3 メールの往還例

以下にメールの往還例を2例紹介する。誤りが多く見られるが、本文のままとする。

(1) タイ人男子 (tm01) と日本人女子 (jf01) の往還例—テーマ「5-17 職業」

(tm01) Hi... ○○ (名前) さん おげんきですか。わたしは △△ (自分の名前) です。あなたのパートナーです。わたしはにほんりょうりがだいすきです。わたしのしゅみはりょうりをつくることです。わたしはミッキーマウスがだいすきです。デイズニーラントへいきたいですよ。I hope to meet you. どうぞよろしく おねがいします。わたしはあなたの写真をみました。あなたはとてもきれいです。……. ByE ByE △△
あなたが将来なりたいしよくぎょうはなんですか？

(jf01) わたしがしょうらいなりたいしよくぎょうは、しょうがっこうのせんせいか、ほいくしです。

(tm01) あなたがしょうらいなりたいしよくぎょうは、しょうがっこうのせんせいか、ほいくしです。どうしてです？

(jf01) まず、こどもがすきだからです。しょうがっこうのせんせいは、わたしのたんになだつたせんせいがたを、みていて、せんせいのようになりたいとおもったからです。ひとに、なにかおしえてあげられるとかはたいへんですが、やりがいがありそうにおもいます。ほいくしは、きんじよのこのめんどろをみていて、たいへんだけど、やりがいがあり、たのしかったし、ほいくえんに、じっさいにいつてしごとをたいけんして、なりたいとおもいました。

(tm01) わたしはしょうらいデザイナーになりたいです。ファッションがすきからです。わたしわふくを作りたいです。みなさんがわたしの作るふくをきるのが見えたら、しあわせになるとおもいます。わたしにとっておかねがたいせつものしゃあります。でも、わたしはしあわせがほしいです。

(jf01) △△さんは、デザイナーになりたいんですね。がんばってなってください！！
△△さんのクラスのともだちのなりたいしよくぎょうのアンケートをみて、すこしちがうのかなとおもいました。にほんのおんなのこのなりたいしよくぎょうは、ほいくしで、おとこのこは、スポーツせんしゅなんですよ。

(jf01) にほんのきよくでしているきよくはありますか??

(tm01) はい、しています。わたしはうただ ひかるがしています。きみはとてもきれいです。わたしは sakura drop といううたがだいすきです。あなたのにほんのすきなかしゅはだれです

(jf01) うただ ひかるですか。いいきよくがたくさんありますね。sakura drop いいきよく ですね。わたしのすきなかしゅは、コブクロというグループや、B o a とかすきです。

(2) タイ人女子 (tf02) と日本人男子 (jm02) の往還例—テーマ「3-3 日本の天皇」

(jm02) △△さん わたしは、○○です。あなたのパートナーです。わたしの、じこしょうかいをします。しゅみは、おんがくをきくことと、えいがをみることです。かぞくは5にんです。よろしくおねがいします。

(tf02) ○○さん。わたしは (本名) です。ニックネムは△△です。
17 さい、こうこう3ねんせいです。しゅみはえいがをみて、まんがをよみます。かぞくは4にんです。よろしくおねがいします。

(tf02) こんよしは わたしたちのおさまは 60 年 。それは 一番ながい間即位。ですから タイでしゅくがかいが あります。ぜつだです。わたしのおさまは いろいろな こくみんなのためがたくさん ありますから。タイ人は おさまおあいしています。ですから。わたしは 日本てんのうのことがらを しりたいですので、このことをします。たとえば てんのうのなまえやおんよしや かぞくなどが しりたいとおもいます。それからてんのうは こくみんなのためは 何かをしましたか。てんのうについて どうかんじしていますか。こたえをもらたら、タイのおさまと にほんのてんのうに くらべて、しりたいことを わかるとおもいます。それから、にほんおてんのうのことを ほかに人につたえることが できてほしいとおもいます。

(tf02) (王様の写真や、日本の新聞に掲載された即位 60 周年の記事を添付して)
日本でのんのは何をしますか。こんなしごとをしていますか。
(jm02) 何を(本文そのまま)しません。そして しごとをしていません。

(tf02) 日本の天皇のなまえは 何ですか。日本の天皇のおんとしては なんさいですか。
天皇のかぞくについて おしりだとおもっています。
(jm02) 日本の天皇のなまえは あきひと です。日本の天皇のおんとしては 71 さいです。
天皇のかぞくは 5 にん かぞくです。この人(写真添付)が『てんのう』です
てんのうはむかしむかし、かみさまだとかんがえられていました
だから、政治的なちからはありません。いまは、にほんのしょうちょうです

(tf02) あなたは、天皇についてどうかんじ していますか。おさまは私にとって 大好きです。
おさまはじょうすな 人です。おんがくもできるし、えをがくのもじょうすです。
それから、のうきょう もです。ほんとうにだいすきです。
(jm02) あまり 好きじゃない。

4.1.4 レポート提出

レポートは、当初日本語での作文を課す予定であったが、9月末の前期終了がM6だけ8月末になったため、日本語で書くことが負担な学生にはタイ語で書くことを許可した。もっとも、このレポートは学生自らが日本人学生とのインターアクションによって何を得たのかを内省することが主目的であった。レポートの構成は以下の通りである。

表3 レポートの構成

- | |
|---|
| ① 表紙 ② はじめに ③ 目的 ④メールのやりとりの記録(日本語)
⑤ やりとりの要約(タイ語) ⑥ 問題点 ⑦ どう問題を解決したか
⑧ 結論(この活動で得たこと) ⑨ まとめと次回への課題 |
|---|

4.1.5 学生の反応

交流活動後、両校の学生にアンケートを実施した。以下は学生の感想の一部である。

(1) ユパラート校学生の感想

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・勉強した日本語がじっさいに使えてよかった。・自分で考えて、自分で答えを探す活動だったので楽しかった。・外国人と協力しあえることができた。・メールでのやり取りに問題があった。・日本人の返事がなかなか届かないことがあった。 |
|--|

(2) 東宇治高校の学生の感想—メールのやり取りについて

- | |
|--|
| <p>(jm06) ちょっと読みにくかったけど、新鮮で楽しかった。
(jm09)説明するのが難しかったが理解してもらえたと思う。
(jm13)初めて外国人とメールしたのでよかった。
(jm15)異文化交流がこんなに楽しいとは思いませんでした。
(jm22)ちょっとしかできなかったけど写真を送って来てくれたのでわかりやすかった。
(jf03)大変だったけど、改めて日本のことやタイのことがわかってよかった。
(jf14)あまりメールをできなかったけど、メールを見るだけで日本への興味があることがわかった。
(jf15)すごく良かった。とても楽しいし、タイの事についてよく分かった。</p> |
|--|

(3) 東宇治高校の学生の感想—交流活動当日のやり取りについて

(jf07) じかに話せて良かったと思います。
(jf12) 楽しかった。メールの人と対面できて良かった
(jf13) メールしていた人と会話できて、とても嬉しかったです。
(jm20) 日本語が上手でとても驚いた。(m5, f6 も同内容)

4.1.6 問題点と今後の課題

(1) スケジュールに関すること

東宇治高校からは、7月に定期考査があるので、6月の1ヶ月間の活動であれば協力するという条件つきで活動を開始した。しかしながら、後述する問題が生じたため、結局定期考査の間もメールのやり取りを続ける学生がいた。また、前述したように、ユパラート校の前期スケジュールの読み違いで作文指導が十分に行えなかった。

(2) 設備に関すること

日本語コースにはコンピューターが1台しかないため、当初は図書館のコンピューターを使用させてもらう予定であった。しかしながら、急いで実施に踏み切ったため、実際に使ってみるとネットの接続ができない、日本語のフォントが入っていない、非常に古いバージョンのアプリケーションソフトを使っているためファイルの互換性に心配がある、などの問題があり、結局日本語コースにある1台を48人が共有しなければならなかった。この時期、学校全体でネット接続の状態がよくなり、学生はネットカフェなどでメールを送信しなければならず、金銭的な負担をかけてしまった。

来年度は、新しく設置された英語コースのコンピューター20台を使用させてもらうよう交渉する予定である。

(3) 管理面に関すること

タイ側と日本側、あわせて86人分のメールアドレス管理が予想以上に大変であった。日本側から知らされたメールアドレスを学生にそのまま知らせたため、相手のメールアドレスに届かない、自分のパスワードを忘れたため、メールが見られない、などの理由でメールアドレスを登録し直すことが度々あり、管理が大変であった。活動を開始する前に、管理者が一括して送信テストをする必要があった。

(4) 学習に関すること

(a) メールの往還

事前に日本側とやり取りは2回以上が望ましいという意見で一致していたのだが、メールの往還が1度きりで終わってしまうペアも見られた。3回以上の往還があったペアは48ペア中31ペアであったが、インタビューテーマについてのメールの往還が、日本の学生からの質問にシフトするペアが多く見られた。日本側の学生にも「事前学習」の課題があったためである。そのため、

一つのテーマについてお互いの考えを深める前に、知識のやり取りで終了するペアが多かった。メールの往還例「5-17 職業」にも見られるように、その殆どがタイ側のテーマと関連しない質問であったので、タイ側のテーマを深めることができなかった。

(b) 表記の問題

事前に「できるだけわかりやすい、伝えるための日本語を意識してメールを書いてほしい」と伝えていたのだが、全部ひらがなで書いてくる学生や、いわゆる「ギャル文字」を使った学生、関西弁を使った学生もいた。

(c) 学習の進度

東宇治高校では、毎週金曜日のホームルームの時間を割いて活動に協力していただいていた。そのため、ホームルームに出席しない生徒からの返信が遅れ、タイ側の学生にとってはパートナーによって学習の進度に影響がでる事態になった。

(5) 活動の意義・目的の共有

今回が初めての試みであったため、活動の趣旨の共有が徹底できなかった。そのため、メールの往還例「3-3 日本の天皇」のように、一般的な情報を伝えるだけで、タイ側からの「そのテーマについてどう思う・感じるのか」への問いかけに十分に対応しきれていない事例が多かった。活動の目的・意義を両校担当で十分に議論しておく必要があった。東宇治高校で行う事前課題への活動を効果的なものにするためにも、ペア作りを慎重に行う必要がある。

4.2 観光日本語

4.2.1 コース内容

(1) 目的 : タイ、とくにチェンマイの観光地や生活に関係することばを学習し、日本語で説明できるようになる。

(2) 活動 : ポスター発表

(3) 時期 : 2006年前期 (5月中旬～8月中旬)

(4) 内容 : (a) 読解 (新聞、雑誌などから、チェンマイの観光名所の説明文を高校生向けにやさしくしたものを読む)

(b) 朗読 (読解教材で使用したものを朗読する)

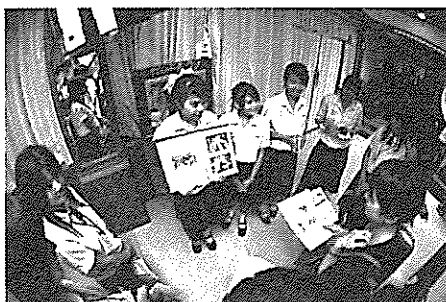
(c) 作文 (興味があるチェンマイの観光地を選び作文をする)

(d) ポスター発表 (4人ずつグループになり、テーマを決めてポスターを作成し、発表する)

4.2.2 ポスター発表テーマ

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. チェンマイ動物園 | 7. プーピン宮殿 |
| 2. ドイプイ | 8. ムエタイ |
| 3. ドイインタノン | 9. 日曜歩行者天国 |
| 4. 北タイの食べ物 | 10. チェンマイナイトサファリ |
| 5. ガードルアン (ワロロー市場) | 11. エレファントキャンプ |
| 6. ウィアンクーカム | 12. ボーサン (傘で有名な町) |

写真2 ポスター発表の様子



4.2.3 当日の様子

当日は学校の会議室を使用した。12グループのテーマ一覧を入り口に貼り、東宇治高校の学生と教員に興味のあるテーマを4つ選んでもらった。ポスター発表は前半と後半に分け、前半は上記「ポスター発表テーマ」の1から6のグループが、後半は7から12のグループがポスター発表を各2回ずつ行った。聴衆者は12のグループのうち4つのグループの発表を見ることができる。1回の発表時間は15分間である。ポスター発表の後、発表グループへのコメントの記入と、見た中から良かったと思うグループへ投票してもらうことを開始時に説明した。

タイ人学生たちはポスターだけではなく、様々なツール（写真、歌、踊りなど）を使ってチェンマイの観光名所を日本語で説明していた。日本人学生からの質問にも何とか日本語で答えようと頑張っている姿が見られた。

4.2.4 学生の反応

「日本事情入門」と同様にこの活動についても両校の学生にアンケートを実施した。以下は両校の学生の感想の一部である。参加した全ての日本人学生から好意的な感想が述べられていた。

(1) 東宇治高校の学生の感想

- | |
|---|
| <p>(f15) 一所懸命発表されていて、タイについてよくわかった。全部おもしろかったし分かりやすかった。順番をつけるのが難しかった。</p> <p>(f16) みんなの日本語が上手でわかりやすかった。紙しばいや歌、写真や実物を使っての説明は工夫されていて楽しかった。全部の発表を見てみたかった。</p> <p>(m20) 日本語がうまく、イラストや写真を用意していたので、とても分かりやすかった。</p> |
|---|

(2) ユパラート校学生の感想

ユパラート校の学生（テストでは好成績を残すが、今回はプレゼンテーション能力が足りなかったグループ）からは日本人学生からの人気投票について一部不満の声が上がったものの、活動の学習意義は理解していたようである。以下は感想の一部ある。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・自分の考えや意見を発表することができた。・身近な場所について日本語で発表することができてよかった。・今まで学習した日本語をじっさいに使う機会があつてよかった。 |
|--|

4.2.5 問題点と今後の課題

「日本事情入門」のインタビュープロジェクトと並行して活動を行ったため、学生に時間的、金銭的に負担をかけているのではないかと心配していたが、学生らはお互いの得意分野を生かして活動に取り組み、結果的に全てのグループでポスター発表が行えた。

来年度も行う場合は、学習の意義を教師、学生ともに十分に理解しておく必要がある。学生の意見にもあるように、自分にとって身近な場所を同世代の日本人に紹介できるというコミュニケーション活動であり、自分たちの創意工夫で様々な表現方法があることが、学生らの活動意欲を促進したように感じる。

5. 最後に

タイで日本語を学ぶ高校生にとって同世代の日本人高校生とのインターアクションは日本語学習に止まらず、彼らの今後の人生にとって大切な一場面になるに違いない。また一人の日本人として、将来の日本を担う若者がタイの家庭での生活を体験することは非常に有意義なことだと実感した。このような機会を9年にわたり生み出し続けておられる両校の先生方、特に東宇治高校の木村滋世校長先生へ敬意を表したい。

注

- (1) 詳細は本紙掲載の鈴木他「北部タイ日本語教師会 2006 年度活動報告—地域社会との連携を目指して—」の「3.2 中等教育機関」中の表 3、4 を参照のこと。
- (2) 東宇治高校からは毎年クラス全員が参加するが、ユパラートからは日本語コース以外の学生や父兄も参加できる。タイからは教員も含め毎年約 20 名が渡日する。

参考文献

稲葉和栄 (2002) 「北部タイ中等教育機関における日本語教育」『国際交流基金バンコック日本語センター紀要』第 5 号、国際交流基金バンコック日本語センター、165-178

稲葉和栄 (2002) 「中等教育後期課程におけるカリキュラムの骨組み」『国際交流基金バンコック日本語センター紀要』第 5 号、国際交流基金バンコック日本語センター、37-51

国際交流基金『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・2003 年— (概要版)』凡人社

プラニー・チョンスッチャリットタム (2004) 「タイ国後期中等教育のための日本語シラバス」『世界の日本語教育』第 7 号、国際交流基金日本語国際センター、71-82

国際交流基金「日本語教育国別情報：1999 年度タイ」『国際交流基金』

<http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/1999/thailand.html>

国際交流基金「日本語教育国別情報：2005 年度タイ」『国際交流基金』

<http://www.jpf.go.jp/j/japan_j/oversea/kunibetsu/2005/thailand.html>